栄光 GLORY

政府は11月3日付で、平成23年秋の叙勲を発表しました。
本町から地方自治功労で元県松山地方局長の藤岡香一さん、児童福祉功労で松山中央乳児保育園園長の坂本君枝さんの2人が受章。
また、10月8日付で発表した、危険な仕事に取り組み社会に貢献した人の功績を称える危険業務従事者叙勲では、
消防功労で西村広武さんが受章しました。

＊瑞宝小綬章【地方自治功労】

藤岡香市さん

ふじおか・こういち　元愛媛県松山地方局長　72歳　北黒田

昭和38年に愛媛県職員採用。以来、約40年間、地方自治業務ひと筋に尽くし、平成11年からは松山地方局長を務めました。

「受章を聞いたときは、家内と間違っているのではと思いました（奥様は有名な書道の先生）。たいしたことはしていません。県職員として同僚・先輩の指導を受けながら、勤務を全うしただけ」と、受章してもなお、腰が低い藤岡さん。

印象に残っている仕事については、「新しく事業を行う仕事。電子計算機導入研究室、国民文化祭準備室、歴史文化博物館準備室など、組織・人・予算など一から作ることにやりがいを感じました」と話します。「自分がやってきたことに対して、大変大きな賞をいただきました。両親もとても喜んでくれていると思います」と穏やかな表情でほほ笑んでいました。

＊瑞宝双光章【児童福祉功労】

坂本君枝さん

さかもと・きみえ　松山中央乳児保育園園長　76歳　西高柳

昭和42年の開園から40年余り、松山中央乳児保育園長を務める坂本さん。1歳以上の保育が主流だった時代。当時6週だった産休明け保育のニーズの高まりを受け、0歳児保育の県下の先駆けとして奮闘してきました。

「近くに経験者がいない中で、抵抗力のない0歳児を預かることは不安でした。スキンシップが1番必要な時期なのに子どもがかわいそうと反対する人もいました。それでも、変わりゆく社会には必要な保育。バックに病院があればと考え、現在の形をとりました。初代職員10人、手探りでのスタートでした」と振り返ります。

県内の0歳児保育の開拓者として、子どもたち、親たちのために走り続けてきた坂本さん。「一人ではできなかった。全職員での受章です」と感謝し、「人間関係が希薄な今こそ、命の大切さを伝えたい」と願います。

＊瑞宝双光章【消防功労】

西村廣武さん

にしむら・ひろたけ　元伊予消防等事務組合消防司令長　68歳　出作

西村さんは昭和48年、松前消防署に入署。以来38年間、地域の消防活動に尽力してきました。

平成9年には、伊予消防等事務組合消防司令長に就任。火災や水害などから地域住民の生命と財産を守るため、迅速で的確な指揮を執ってきました。情熱と使命感は人一倍強く、地域を守るその精神は、引退後も後輩たちに脈々と受け継がれています。

「長い消防活動の中で、最も記憶に残っていることは、平成3年の台風被害。特に北黒田海岸付近の被害がひどく、台風が去ったあとの復旧作業も大変だった」と振り返ります。

災害時、まっ先に現場に向かわなければならない消防士という仕事。「理解し、支えてくれた家族のおかげです」と感謝していました。